



INTERCOUNTRY

インターカントリー

養子のルーツ探しISSJの再会援助

- 国際養子縁組で海外に行った養子と実母との再会を援助する -

ISSJソーシャルワーカー 大場亜衣

日本国際社会事業団 (ISSJ) は、1952年に日米孤児救済合同委員会として発足してから、50年以上に亘り、国際養子縁組 (二カ国以上の国籍が関わる養子縁組) を行っています。ISSJを通して養子縁組をしたケースの記録 (実親との面接記録、養子となった子どもの児童調査、養親の家庭調査、養子縁組審判書など) は、全て事務所に保管されています。ここ数年、ISSJは、養子となった者たちから、実親に関する情報、さらには実親探しの可能性について、問い合わせを受けることが多くなりました。結婚、出産、養親との死別、孫の誕生など、養子自身が人生の節目を迎え、自身の生い立ちを振り返るなかで、自分史から抜け落ちている出自について知りたい、という思いを抱くのは至極当然といえます。

養子となった者から、実親について知りたいという問い合わせを受けると、ISSJは当時のケースファイルを取り出し、養子縁組に至った経緯を記録を元に整理し、養子に伝えます。実父と実母が出会ったいきさつ、養子縁組という選択に至るまでの実母の苦悩、子どもを手放した後も子どもの幸せを願ってやまない実母の姿が、面接記録や実母からの手紙に記されています。こうしたエピソードのほとんどは、養子が初めて耳にするものであり、今まで漠然として抱いていた実母のイメージが、実像を伴って感じられるようになります。当時の状況を知るにつれ、実母が多くの困難に見舞われながらも妊娠を継続し、自分に生を与えてくれたことに謝意を伝えたい、実父についてもっと詳しく聞いてみたい、自分が幸福であることを伝え、実母に安心してもらいたいなど、様々な思いを抱きます。

養子から実母捜しの依頼を受けると、ISSJは弁護士を通して、養子縁組当時の実母の戸籍謄本を基に戸籍の附票を取得します。戸籍の附票から現住所を確認すると、実母に宛てて手紙を郵送します。ただ、実母のなかには現在の家族に子どもを養子に出したことを伏せている者もいます。実母の「今の生活」を守るためにも、実母に送付する手紙の内容には細心の注意を払います。ISSJからの手紙に対し、電話を返してくれた実母には、ISSJが養子の依頼を受けて、実母捜しを始めた経緯を説明し、養子から預かったメッセージを伝えます。養子縁組を巡る精神的な葛藤から、拒絶、憤怒、不安な感情をぶつけてくる母親もいます。ISSJからの連絡に最初は戸惑いや不快感を示す母親も、気持ちの整理がつくと、成人した実の子どもの存在



を客観的に捉えられるようになります。養子と実母との間で同意ができれば、手紙を交換したり、ISSJの事務所で再会を果たすこともあります。

ただ、実親捜しは、全ての養子が満足するような結果に終わる訳ではありません。実母がISSJからの手紙に対し、返信をしない場合もあります。ISSJに返信はしても、現在の家族を慮って養子となった実の子どもとの交信を断る母親もいます。このように、養子となった我が子との関係を再構築できる状況にない母親に対し、ISSJがそれを強要することはありません。養子に対しては、現在実母が置かれた状況、実母が養子と連絡を取ることができない理由を説明します。ISSJを通して、実母に感謝の気持ちを伝えることができたことに満足する者もいれば、自分の思慕を直接実母に伝えることができず、養子として手放された時に続き、再び実母から見捨てられた思いを抱く者もいます。実親捜しの過程で実母の死亡が判明した場合は、養子はその死を受け入れなくてはなりません。実母の死を受けて、実母のきょうだい捜しを継続し、実母の親族と交流を深めている養子もいます。日本語を忘れた養子と実母やその親族とのコミュニケーションを仲立ちするため、ISSJが双方の手紙を翻訳したり、再会の場面に立会うこともあります。

このように20年、30年、時には50年以上の歳月を経て、養子となった者たちが実親捜しを始め、ISSJがその行程に寄り添う時、わたしたちは、養子縁組という行為が養子と実親の双方の生涯に大きな影響を与え続けていることを再認識するのです。

親子再会援助のケース

米国人夫婦の養子となった和男(匿名)は、米国で小学校から大学まで教育を受け、学生時代に知り合ったアジア系の女性と結婚し、今は二人の子どもの父親となりました。和男の妻も彼と同様、幼少時に米国人夫婦の養子となり、米国文化の中で養育された女性です。

この妻の強い勧めもあり、和男はISSJに実母捜しの依頼をし、母の所在を明らかにすることが出来ました。和男は、妻と二人の子どものを伴い母に会うために来日しました。母は、独身で高齢な祖父母と同居し、自宅でお稽古事を若者に教えて家計を支えていました。しかし、実母には日本人男性の恋人がいました。彼は日々、頻繁に電話連絡をし、母の一日の生活の様子や行動を把握しないと満足しない男性で、母は完全に彼の支配下におかれている状態でした。和男は、母の自宅で、久々の「家族再会」を祝い、母が心を込めて準備をした食事を囲み、思い出話に花を咲かせていました。しかし、親子再会を喜び合っている間でも、恋人が急にやってきたらどうしようかという実母の不安に満ちた態度は、皆、はっきりと感じることが出来ました。

和男一家が宿泊するのに十分な部屋はあるものの、母は自宅に息子一家をとめることも出来ず、息子もそのような母の現況を十分理解し、一家でホテルに引き上げ、日本での旅行も母の同伴なしに計画されました。

和男は母との再会を喜びながらも、養子縁組により法的な親子の関係を絶ち、それぞれの人生を歩んできた二人にとって、空白の期間を埋めることは容易なことでないこと、お互いに現在の生活を尊重することの必然性を感じ取ったと思われます。養子縁組によって分かれた親子の再会や人間関係の再構築を援助する際には、それぞれが辿ってきた人生の重みを改めて考えさせられるのです。



「国際養子縁組とハーグ条約を考える会議」開催

2008年2月13日と14日の二日間、東京広尾のJICA地球広場に於いて、「国際養子縁組とハーグ条約を考える会議」（英語名 2008 Intercountry Adoption Conference）が当事業団主催、独立行政法人福祉医療機構「長寿・子育て・障害者基金」助成事業として開催されました。

日本は国際養子縁組に関して法整備の面で大変遅れています。国際養子縁組法もありませんし、ハーグ条約1993年 国際養子縁組に関する子の保護及び国際協力に関する条約 の批准どころか署名もしていません。全てのハーグ条約批准に関してはいまや日本は完全に出遅れています。特に国際養子縁組は人身売買の温床になりうるので、ISSJではそれを防ぐためにハーグ条約の批准を推進してきました。

そこで、この度すでに署名・批准しているアメリカ、フィリピン、スイスから専門家を招いて、ハーグ条約によって守れる子どもの保護及び、ハーグ条約批准に向けてどのように国内法や国際養子縁組法の整備が行われたかについて各国の報告を聞き、討議する目的で上記の会議が開催され、外務省、法務省をはじめ、メディア、児童相談所、国際養子問題研究者等30名以上の参加者がありました。

1993年国際養子縁組に関するハーグ条約に詳しいISS Geneva/IRC CoordinatorのMr. H. Boechat、及びChild Rights Assistant のMs. C. Baglietto両氏をスイスから招聘し、ハーグ条約とは何か、ハーグ条約の必要性、日本がハーグ条約を批准する必要性等について講演をお願いしました。さらにISS USAのMs. Julie Rosickyより養子受入国からみたハーグ条約の必要性について、また養子送り出し国であるフィリピンからはMs. Paz U. deGuzmanからフィリピンの国際養子縁組状況について説明を行いました。そして最後に大森ISSJ常務理事が日本に於ける国際養子縁組の状況を説明し、また在日各国大使館、海外養子斡旋業者に対して行った調査票の報告をしました。いずれのセッションにおいても活発な質疑がかわされ、日本が一日も早く1993年ハーグ条約を批准することの必要性が参加者の共通認識として改めて確認されました。



「ISS本部会議、ISSアジア太平洋地域会議」参加

ISSアジア・太平洋地域会議は5月1日・2日と中国の深圳で開催され、ISS本部会議は5月5・6・7日にスイス・ジュネーブで開催されました。ISSJから日本における1993年国際養子縁組に関わるハーグ条約批准に向けての活動報告、ISSオーストラリアから1996年ハーグ条約（親責任及び子の保護措置についての管轄権、準拠法、承認、執行及び協力に関する条約）に関わる会議の報告しました。その後、国境を越える人々への支援について話し合い、問題解決に向けて各国との連携を強める必要性を全員で確認し、今後ネットワーク強化に向けてそれぞれの国がまだISSネットワークに参加していない国に対して参加を働きかけることが確認されました。さらに、ISSを社会に広く知らしめる方法について、ISSの活動の表明である定款の確認をおこないました。また、ISSの本部、各支部やコレスポンドントが日本政府、特に法務大臣に対して、1993年ハーグ条約を批准するよう依頼の手紙を出して下さることになりました。

日本太鼓連盟 太鼓チャリティコンサート 共催

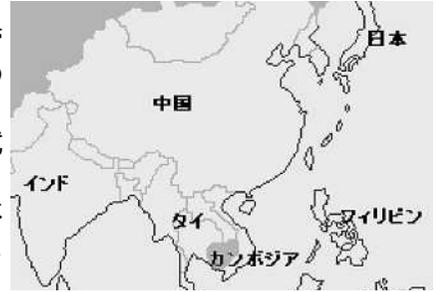
2008年6月3日、東京青山の草月会館で、毎年日本太鼓連盟が開催する「日本太鼓チャリティコンサート」に共催しました。このコンサートは、日本の伝統文化である日本太鼓の演奏を政・官・財界・在日外国高官、その他オピニオンリーダーの方々を対象に実施し、参加者からはチャリティ募金を募り、その募金は、共催の非営利団体に寄付されています。今年は、ISSJが共催団体に選ばれ、1,254,500円のご寄付を頂きました。

会場には、ISSJの活動を紹介するパネルも展示され、参加者の方々は興味深く閲覧下さり、熱心に質問をされたり、ISSJのバザーにご自身の作品を提供して下さるなどの申し出もありました。一人でも多くの方にISSJを知って頂けたこと、多くのご寄付を頂きましたこと、また、このような機会を下さいました日本太鼓連盟の方々に、心より深く感謝申し上げます。

カンボジアプロジェクト紹介

ISSJ 常務理事 大森 邦子

2008年6月28日から7月4日まで、カンボジア・プノンペンに行ってきました。ISSJでは昨年度に引き続き、郵便貯金・簡易生命保険管理機構の国際ボランティア貯金をいただき、『ストリートチルドレンのための識字教育及び母親への自立訓練』プログラムを進めております。国立博物館近くの通りに小さな一室を借りて立ち上げた、まだまだ試行錯誤中のプログラムの様子をご報告したいと思います。



初日朝9時、子ども達は勝手気ままに遊んだり、寝転んでいたり、本当に眠っていたりという状況で、とても識字教育という雰囲気ではありませんでした。皆、落ち着きなく、しかも9時30分頃には、ごろごろと寝転び始めました。子ども達の体つきをよく見てみると、ほとんどの子どもが栄養失調の体型をしていることに気がつきました。子ども達は朝8時には集まり始め、それぞれが文字を教わったり、塗り絵をしたり、寝転んだり、おはじきなどで遊んだりしながら、10時半頃には近くのお店から調達してくる昼食をもらい、去っていきます。通ってくる子ども達の顔は日によってまちまちで、一日に10数人から30人近く。このような現状のようでした。現地のスタッフと話し合い、朝御飯とおやつを出すこと、手洗いの習慣をつけること、子ども達の出欠をとるようにする事、水浴びができるよう整備していくことなどを決めました。

翌日、フランスパンに砂糖の朝食を食べた子ども達は、静かに勉強を始めたのです。おながが空いていたのでした。そして10時におやつを出しました。するとまた勉強に集中するのです。11時に一人分の御飯と野菜炒めをビニール袋に入れた昼食が配られました。その場で食べる子どもと、即座にストリートにいる家族のために持っていく子どもがいます。



子どもについて行くと、国立博物館の路上に4家族が集まって子どもが持って帰る食事を待っていました。一人の母親は妊娠しており、来月出産予定とのこと。すでに2人子どもがいるので、3人になったらどうなるのでしょうか。将来はお母さん達に給食の作り方を覚えてもらい、小さな食堂を経営するなど自立へつなげていくのが目標です。

カンボジアにはストリートチルドレンを助けるNGOがたくさんありますが、それでも行き場のない子ども達が集まってきます。勉強よりも空き缶を拾って稼げという親たちに、あせらず時間をかけて、学ぶことの大切さを理解してもらえよう、プログラムを進めていこうと思います。

補助金、助成金事業完了のご報告

この度平成19年度、財団法人JKA(旧日本自転車振興会)補助金、財団法人日本財団助成金、独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険管理機構 国際ボランティア貯金寄附金、独立行政法人福祉医療機構助成金の交付を受けて下記の事業を完了致しました。ここに、ご報告と共に感謝の意を表します。

平成20年3月完了

JKA
日本財団
福祉医療機構

「国際的児童難民家族相談等補助事業」
「国境を越えた未成年者への家族再会援助」
「国際養子縁組をした養子の実態調査」

平成20年6月完了

国際ボランティア貯金

「カンボジア・プノンペンのストリートチルドレンのための識字教育及び母親への自立訓練プログラムの実施」



第57回チャリティ映画会のご案内

恒例のチャリティ映画会のご案内を申し上げます。今回上映する作品はティム・バートン監督制作の話題作「ビッグ・フィッシュ」です。「ビッグ・フィッシュ」とは「大物」を意味する英語ですが、大ボラを吹きつつ人気者の父親に反発してきた一人息子が、父の死期が近いことを知って父と真に向かい合って父の人生を考える感動作です。上映日時・場所は以下のとおりです。

日時 : 10月17日(金) 上映時間 11:00、14:30、18:30
場所 : 九段会館ホール (地下鉄東西線 半蔵門線、九段下駅下車徒歩1分)
上映作品: ビッグ・フィッシュ (米国映画 上映時間125分)



時が止まれば、それは本当の恋



君が大きすぎるんじゃない、この街が小さすぎるんだ

最近DVDが普及していますが、映画館には「大スクリーンならでの迫力」、「お友達と感動を共有する楽しみ」もあります。どうぞ群生する水仙など美しい映像を大画面でお楽しみください。今年も催物委員会は皆様により大きな感動をお届けできるようチャリティ映画会を開催してまいります。

映画会では幅広いボランティアネットワークに支えられてバザーも同時に開催しております。ボランティアによる手作り作品やお菓子、カンボジアの女性による手作り作品、タイやベトナムのスカーフや小物、衣料品、バッグ、アクセサリなど多数取り揃えております。前回、チャリティ映画会で頂いた皆様からのご寄付は、コイン募金、バザーへのご協力も含め、3,087,015円でした。このご寄付は国境を越えて、支援を必要としている子ども達とその家族のために大切に使用させていただきます。皆様のご支援、ご協力で心より感謝申し上げます。



第2回クリスマス・チャリティコンサートのご案内

～歌とパイプオルガンの夕べ～

日時 : 12月4日(木) 19:00 開演 (18:15 開場)
場所 : 日本大学カザルスホール (御茶ノ水) 全席指定 5000円 (税込)
曲目 : バッハ “主よ、人の望みの喜びよ” “トッカータ アダージョとフーガ 八長調”
ヘンデル “アン王女の誕生日の為のオード”より “永遠の源よ”
フランク “天使の糧”、グノー/バッハ “アヴェ・マリア”
クリスマスソング・メドレー他



昨年、ご好評いただきましたクリスマスコンサートを今年も開催することになりました。今年は日本を代表するオルガニスト井上圭子さんと、今最も注目を集めているソプラノ歌手で、NHK-FM「気ままにクラシック」(毎週金曜14:00～)のパーソナリティなどでも活躍中の幸田浩子さんのアンサンブルをお届けします。また、当日はクリスマスにちなんだミニバザーやCDの販売も予定しております。是非お誘い合わせの上、心温まるクリスマスの夕べにお越しください。



知本 哲郎



十数年前、岩井理事長がISSJについて熱く語っていたのが、私とISSJとの出会いであったかもしれないと思う今日この頃です。実親のもとで養育されない子どもを国境を越え養子縁組する援助サービスとは、当時「大変に苦労が多いことと思えても、自分とは関わりがない」と思っていました。平成18年4月、縁あって事務局スタッフとしてISSJに入団、経理を担当することになりましたが、案件を担当するソーシャルワーカーの活動を日々見聞きするに連れ、将来を担う子ども達にとって一番大切な力となる事業ではないかと思っております。案件が纏まるのに2～3年かかると言われておりますが、養親のもとで幸せに暮らしている便りを受けて、担当ワーカーはもちろん、みんな喜んで喜んでいる姿を見るたびに、微力ながら携われることができ、本当に良かったと思っております。これからも皆様方のISSJへの厚いご支援を心よりお願いいたします。

伊部 亜理子



私が国際関係問題に初めて関わったのはインドシナ難民問題が世間を賑わせていた大学2年の時のことでした。ラオス人の女性に日本語を教えたことがきっかけでした。難民支援活動に関わったことが国際関係、特に南北問題の勉強を深めるきっかけとなり、その後、米国にてさらに学ぶチャンスを頂きました。今回、ご縁があってISSJで働く機会を頂き、嬉しく思っております。ISSJは50年以上の国際養子縁組の実績を持ち、2カ国間以上にまたがって苦境に追い込まれた女性、子ども達、家族、難民など弱者の声に真摯に耳を傾け、ダイレクトに手助けをしています。そのようなISSJの活動に加われずことを誇りに思って、事務局として日々の業務を、また世間でのISSJ認知度を高める為の広報活動に務めてまいりたいと思います。ご指導、ご鞭撻賜りますようどうぞよろしくお願い申し上げます。

ISSJ活動報告2008年1月 8月

<p>1月</p> <p>17日 戸田奈津子氏と映画について話し合い</p> <p>2月</p> <p>7日 呉ロータリークラブで講演(大森常務理事)</p> <p>13～14日 「国際養子縁組とハーグ条約を考える会議」開催</p> <p>20～28日 カンボジア出張(大森常務理事、日原ソーシャルワーカー)</p> <p>3月</p> <p>1日 難民事業本部(RHQ)シンポジウムパネリスト</p> <p>14日 難民事業本部(RHQ)の研修生への講和</p> <p>23日 第5回国際交流フェスタinくれ 参加</p> <p>25日 ISSJ第316回理事会、第145回評議員会開催</p> <p>4月</p> <p>3日 JKA補助金伝達式出席</p> <p>7日 日本財団補助金春の交流会2008</p> <p>17日 桜東京パイロットクラブ 寄付金贈呈式出席</p> <p>24日 東京メソニック協会助成金贈呈式出席</p> <p>30日 深圳のISSJ香港施設見学(大森常務理事)</p> <p>5月</p> <p>1～2日 ISSアジア・太平洋地域会議参加 - 中国・深圳(大森常務理事)</p> <p>5～7日 ISS本部会議・ジュネーブ参加(大森常務理事)</p> <p>15日 UNHCR - ISSJ Meeting</p>	<p>15日 RCJ委員会</p> <p>21日 日本財団監査</p> <p>21日 UNHCR - ISSJ Meeting</p> <p>22日 ISSJ第317回理事会、第146回評議員開催</p> <p>26日 UNHCR - NGO Meeting</p> <p>29日 日本太鼓連盟を表敬訪問</p> <p>6月</p> <p>3日 日本太鼓連盟 太鼓チャリティコンサート共催</p> <p>5日 RCJ総会</p> <p>16日 RAJA Meeting</p> <p>20日 第56回チャリティ映画会開催</p> <p>24日 アメリカ大使館 - ISSJ Meeting</p> <p>28日～7/4日 カンボジア出張(大森常務理事、重籐ワーカー)</p> <p>7月</p> <p>19日 フィリピン人ソーシャルワーカー来日</p> <p>23日 日本太鼓連盟を表敬訪問</p> <p>28日 フィリピン人ソーシャルワーカー帰国</p> <p>29日 UNHCR - ISSJ Meeting</p> <p>8月</p> <p>11日 UNHCR - NGO Meeting</p> <p>19日 ひろしまハウス事務局長と面談</p> <p>23日 日本国連協会訪問</p>
---	--

インターカントリー第35号 2008年8月31日発行

発行：社会福祉法人 日本国際社会事業団
International Social Service Japan (ISSJ)
発行責任者：常務理事 大森邦子
発行所：〒153-0051東京都目黒区上目黒3-6-18
西村ビル601号
TEL：03-3760-3471 FAX：03-3760-3474
IPTEL：050-5527-0968
E-Mail：issj@issj.org URL：www.issj.org

